区立幼稚園の状況について

文教委員会資料

令和４年８月２２日

子ども未来部保育課

１　経緯

　区立幼稚園の入園希望者は年々減少しており、令和３年度４月入園募集においては、学級編制人数１０人にかろうじて達した園が複数あった。

　それを受け、区立幼稚園の今後の運用について、閉園の方向性も視野に入れつつ、検討委員会を設置し検討してきた。

２　検討委員会のまとめ

　幼保一体施設については、引き続きニーズの変化に対応し、幼保一体施設の特徴をいかして、より一層の幼児教育の充実を図ることが必要である。また、単独園については、ニーズの減少を踏まえ順次閉園とし、施設の老朽化が進んでいる伊藤幼稚園については令和５年度末をもって閉園が適当であるとのまとめとなった。

３　区の方針

　今後の区立幼稚園の運営については、ニーズの変化に対応し、幼児教育の充実を図る。幼保一体施設６園（平塚、御殿山、第一日野、台場、二葉、八潮わかば）については、施設の特徴を生かした取り組みを推進し、乳幼児教育のより一層の充実を図る。利用者数の推移および各園の充足率、施設老朽化に伴う改築費用等を踏まえ、充足率の低い単独園３園（城南、浜川、伊藤）については閉園とし、特に施設の老朽化が進んでいる伊藤幼稚園については、令和５年度末の閉園とする。

４　今後の対応

伊藤幼稚園の在園児保護者・地域に向けた説明会を９月以降に開催予定。同園の令和５年度募集は５歳児（空き分）のみ、新規４歳児は募集停止とし、令和６年度募集は行わない。

（参考）区立幼稚園定員充足率